

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	128 俳句啓発推進経費	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	08	芭蕉顕彰費
基本 施策	35 文化・芸術により、豊かな感性と創造性を育む	細目	135	俳句啓発推進経費
		細々目	51	俳句啓発推進経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード	11300		担当者
	名称	企画総務部企画課		氏名
				福島 礼子
				連絡先
				22 - 9621 (内線) 2115

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	芭蕉翁、俳句に興味を持っている市民	※対象件数
成果(どうする)	市民が芭蕉翁について関心を深め、また市民の間に俳句をより一層浸透させることにつながる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	俳句の日記念事業(小中学生を対象に俳句教室を開催) 芭蕉月間事業(「歌枕俳枕講座」講演会、吟行・句会を開催) 芭蕉ゆかり俳句事業(芭蕉翁ならびに俳句に親しむため句会を開催) 全国俳句募集事業伊賀市賞 芭蕉俳句懸垂幕掲示	
社会情勢 の変化等	「(財)芭蕉翁顕彰会」と「いがまち芭蕉翁顕彰会」が統合され、新たな(財)芭蕉翁顕彰会に組織が一新されたことにより、芭蕉翁生誕地として、芭蕉翁顕彰事業を全市域的により一層取り組むことになった。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
俳句教室開催回数		回	目標	1	目標	1
			実績	1	実績	1
歌枕俳枕講座開催回数		回	目標	1	目標	1
			実績	1	実績	1

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
夏休み俳句教室参加者数		俳句を学ぶ場を設けることで、市内小中学生の俳句活動が一層盛んになる	人	目標	70	目標	70
				実績	70	実績	70
歌枕俳枕講座参加者数		芭蕉や俳句に関する講演会に参加し、より知識を得ることにつながる	人	目標	80	目標	80
				実績	80	実績	76

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計(A)	1,012		793		946		870	
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	0		0					
一般財源	1,012		793		946		870	
事業投入人件費(B)	0.3人	2,160	0.3人	2,160	0.3人	2,160	0.3人	2,160
フルコスト(A)+(B)	3,172		2,953		946		3,030	

事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	○
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
効果性	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	松尾芭蕉生誕地として市民の芭蕉翁や俳句に関する関心を高めるため、市民の文化活動に資する事業として実施する必要がある。
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。【事業名】	
効果性	受益者負担を求められることができる事業である。全体コストにおける負担構成は適正である。コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善への取り組み状況

改善策 参加者、来場者が増えるように、参加者募集、開催案内等の広報を行う。講師によって報償費に格差があるため、予算額と決算額に差額が生じるが、来場者増加に繋げるために知名度の高い講師を依頼する必要もあることから、当初予算の経費削減は難しい。

【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	参加者数の拡大を図るため、イベントチラシの発行部数を増やし積極的な広報活動を行った。事業内容の見直しを行い、芭蕉祭とも俳句大会事業と夏休み俳句教室事業の統合、芭蕉記念講演会事業と歌枕俳枕講座事業の同時開催を行うなど、類似するイベント行事を統合し、予算削減に努めた。

今後の方向性 (Action)

評価者氏名 (担当課長)	増田 基生
【方向性】	現状維持
【理由】	市民が松尾芭蕉や俳句に関する関心を高め、親しむ機会が提供できる事業であることから、事務事業を継続する。
現時点における課題、その他	参加者数を増やし、参加者の満足度をより高めるため、事業周知方法を検討する必要がある。
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	22年度から、イベントチラシ・ポスターを市外へも配布し、積極的な事業周知を行う。